

第42回原産年次大会

低炭素社会実現への挑戦 原子力は期待に応えられるか

平成21年4月13日(月)～15日(水)
パシフィコ横浜 会議センター 3F「大会議室」

レセプション 4月13日(月) 17:30～19:00

(会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル「ボールルーム」)

開会セッション 4月14日(火) 9:30～12:30

原産協会会長所信表明

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

神奈川県知事挨拶

松沢 成文 神奈川県知事

横浜市長挨拶

中田 宏 横浜市長

講演：

「原子力エネルギーアウトルック2008」

ルイス エチャバリ 経済協力開発機構 原子力機関(OECD/NEA) 事務局長

「世界の安全保障と原子力 カーネギー平和財団報告書「原子力ルネッサンス」」

シャロン スクワッソーニ カーネギー平和財団 上級研究員

セッション1 4月14日(火) 14:00～17:10

原子力大国・経済大国における低炭素社会実現にむけた原子力発電への期待

気候変動問題に関する議論の場において提示されている問題解決に向けた高い目標を達成するには原子力利用が不可欠であり、一層の活用が必要との認識が世界的に高まっている。しかし、加速する温暖化に対し、現状のままで原子力開発スケジュールが追いつくことができるのかという懸念が一方である。

このセッションでは、経済発展と低炭素社会の両立の観点から、世界経済で大きなウェートを占める国々での原子力発電の果たす役割についてレビューするとともに、原子力開発を進める上での共通課題とその解決策について考える。

講演：

「英国におけるエネルギー政策と原子力発電開発の見通し」

ティモシー ストーン 英国エネルギー気候変動大臣・英国財務省主席担当大臣
付アドバイザー

「低炭素の未来における原子力エネルギー」

アラン ビュカーユ アレバグループ 上席副社長

「フィンランドのエネルギー政策における原子力の役割」

ヨルマ ユリーン 駐日フィンランド大使

「成長を続けるインドのエネルギー政策と原子力発電」

シブ アビラシュ バルドワジ インド原子力発電公社 理事

「原子力開発の推進、地球環境の保護」

ユ チェンフェン 中国核工業集团公司(CNNC) 副総経理

「原子力大国・経済大国における低炭素社会実現に向けた原子力発電への期待

日本産業界が果たす役割 」

佃 和夫 三菱重工業(株) 会長、(社)日本原子力産業協会 副会長

セッション2 4月15日(水) 9:35～12:15

世界的な原子力利用拡大のなかでの日本への期待と役割

世界的に原子力利用の拡大が進むなか、アジアや産油国を含む中東、南米をはじめとする新規に原子力導入を計画する国々の動きは、今後世界の原子力に新風を吹き込むことも考えられる。

このセッションでは、核不拡散、安全性、セキュリティの確保の観点もあわせ、こうした国々より自国の原子力導入政策や日本に対する期待等を語っていただき、原子力新規導入国に対し、日本はどのような支援を行っていくべきかを考える。

基調講演：

「世界の原子力開発にむけた日本の貢献」

西山 英彦 経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部長

講演：

「アラブ首長国連邦における原子力発電の導入評価および実施方針」

ハマド アルカービ アラブ首長国連邦 国際原子力機関（IAEA）大使
外務省 原子力開発担当 政府代表

「タイにおける原子力の現状と今後の開発計画」

シリチャイ ケインミスク タイ科学技術省 原子力庁（OAP）長官

「チリの原子力発電開発の現状と将来の見通し」

フリオ ベルガラ アイモーネ チリ原子力委員会 委員

「ポーランドにおける原子力の展望」

トーマス ヤコヴスキー ポーランド経済省 原子力局 首席専門官

午 餐 会 4月15日(水) 12:30～14:15

(会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル「ボールルーム」)

今大会開催地である横浜は、今年、開港150年を迎える。

ここでは、セッション内容とは趣を変え、海外の窓口として発展してきた「港・横浜」の歴史をめぐる文化的内容の講演を聴く場とする。

特別講演：

「私の取材ノートから ～横浜開港150年～」

松平 定知 元 NHKアナウンサー、早稲田大学 大学院 客員教授

特別講演 4月15日(水) 14:30～14:40

「低炭素社会実現への挑戦 原子力への期待」
斉藤 鉄夫 環境大臣

セッション3 4月15日(水) 14:40～17:40

低炭素社会における原子力の役割

持続可能な社会に向けた低炭素社会の実現が世界規模で求められており、市民社会におけるエネルギー問題に関する理解の深まりや課題共有が重要視されている。原子力発電はエネルギー安全保障や地球環境問題の面から重要な位置付けをされているが、その推進には、トラブル等を背景とした市民の不安感に目を向け、継続的な対話を通じて相互理解を深めながら原子力に対する社会的な認識の向上を促す取り組みが求められる。

このセッションでは、対話を通じた相互理解の向上という視点を踏まえ、低炭素社会の実現に果たす原子力の役割について、環境・コミュニケーション・マスコミなど、原子力分野に限らない異なる視点を有する識者から意見を伺い、原子力関係者の今後の取り組みの参考とする。

コーディネータ：北村 正晴 東北大学 名誉教授

基調講演：

「地域の視点からの信頼醸成」
河瀬 一治 全国原子力発電所所在市町村協議会 会長、敦賀市長

「科学技術と社会との信頼構築にむけた専門家の役割」
藤垣 裕子 東京大学 大学院 総合文化研究科 准教授

パネル討論：

井川 陽次郎 読売新聞 論説委員
枝廣 淳子 環境ジャーナリスト
榎本 晃章 (社)日本動力協会 会長、東京電力(株) 顧問
八木 絵香 大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 特任講師

大会司会：水野 潤子 フリーランスナレーター

各種展示 4月14日(火)～4月15日(水)

電気自動車(プラグイン・ハイブリッド含)

出展：トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、富士重工業(株)、三菱自動車工業(株)

今回の年次大会では、自動車メーカー4社のご協力を得て、電気自動車(EV)とプラグイン・ハイブリッド車(pHV)を計4台展示いたします。本年からいよいよ発売が開始される車両、発売を目指して研究中の性能確認実験車を一同にご覧いただくことで、地球温暖化防止に大きく貢献できるEV・pHVの開発に取り組んでいる様子がお分かりいただけたと思います。プログラムの合間には、是非とも足をお運びください。

(於：会議センター3F会場海側ロビー)

放射性廃棄物の地層処分について

出展：原子力発電環境整備機構(NUMO)

地層処分は、地下300mより深い安定した地層に高レベル放射性廃棄物等を処分する方法です。

NUMOは、処分の実施主体として「処分施設の設置可能性を調査する区域」について全国の市町村から応募を受け付けています。(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

海の生き物との調和を求めて

出展：(財)海洋生物環境研究所(海生研)

海生研では、原子力施設周辺海域において、環境や生物の保全の視点から調査研究を積み重ね、その安全性に関する科学的知見を提供し、地域共生に貢献しています。

今回は、調査研究の内容や成果について、生物の展示やパネルを用いて紹介します。

(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

福井大学附属国際原子力工学研究所の概要紹介

出展：福井大学

福井大学では、本年4月に『国際原子力工学研究所』が設置されました。原子力工学基礎分野、原子力工学研究開発分野などからなり、「もんじゅ」を生かした高速炉工学に重点を置きます。この他、新型炉や燃材料、医学物理などの研究を推進します。将来的には敦賀を拠点に大学院生を受け入れ、授業も開始する予定です。

(於：会議センター3F会場受付側ロビー)

以上